

日本経営診断学会第 52 回統一論題趣意書

「経営診断における価値共創の視点」

日本経営診断学会が 1968 年に設立されてから 50 年以上経過し、我が国のビジネス領域におけるマクロ・ミクロ環境はともに大きく変化してきている。そして、近年では、従来の企業に対する診断から、非営利組織や地域、介護、福祉など幅広い領域へと診断を適用することで経営診断は発展してきた。

特にビジネスに関連する分野において価値共創が重要な研究上および実務上の課題となっている。これには 3 つの点から指摘することが出来る。

第一に価値そのものへの見直しである。市場が成熟し、企業と顧客とのリレーションシップが強調される中で、取引の対象となる製品やサービスの価値を市場価格だけでなく、新しい観点からアプローチしようとする動きが見られる。新しい価値概念もしくは価値の創出プロセスを捉え直す中で価値共創の概念が重要となっている。

第二に価値の創造者の広がりである。情報技術の進展によって多くの関係者が結びつくようになってきている。従来の製造業者だけが価値を生み出すのではなく、多くの関係者を巻き込みながら価値が創出されてきている。

第三に技術的な進展がある。情報技術の大幅な進歩は、インターネット、ソーシャルメディア、データベースを利用することでこれまでにない関係を考慮する必要が出てくる。企業と顧客との二者関係よりも複雑なエコシステムの中で、価値創出を果たす必要が出てくる。

第 52 回全国大会における統一論題は上記のような枠組みを踏まえ「経営診断における価値共創の視点」とする。多くの利害関係者と巻き込みながら価値の創出が新時代における経営診断にとって必要となるものであると考えることが出来る。

本大会ではこのようなテーマの設定の元、

- ① 価値共創における理論的フレームワーク
- ② 経営診断実務における価値創出
- ③ 企業と社会の関係と価値共創

という 3 つのサブテーマを設け、本学会の特色である理論と実務の融合を活かしながら、議論を進めるものである。さらに今回の大会は上記にあげた研究テーマのみならず、新たなテーマでも積極的な報告を期待する。

以上